

学習内容報告書 1

学校名	宮崎県串間市立市木小学校
授業者	永友智子・矢野万里子・矢野恵美・佐藤尚子

1. 単元計画

1-1. 単元名

海に親しむ

1-2. 学年

全学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

特別活動・総合的な学習の時間・生活科

1-4. 単元の概要

○海に親しむ

- ①海辺を歩いて・・・砂浜での造形活動、貝殻や漂着物等を使った創作活動
- ②海での遊び・・・サーフィン等のマリンスポーツの体験

①については、遠足（学校行事）での実施であり、実施当日の朝、全校児童が石波海岸に移動した直後に比較的大きな地震が発生した。その後の余震や津波発生なども想定され、安全面の配慮から学校に引き返し校内遠足としたために創作活動は実施できなかった。

②については、学校行事として全校児童を対象に、サーファーの方や保護者の協力のもとにサーフィン教室を実施した。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

- 校区内にある美しい海を身近に感じ、実際に海岸を歩き児童自身が五感を使って美しさやすばらしさを実感することで、海や周辺の自然に対する愛着を育てる。また、砂の造形活動や漂着物を使った創作活動にも取り組むことで、豊かな発想を培う。
- サーフィンなどのマリンスポーツを体験することで、海の楽しさを実感し、今後も安全に配慮しながら海に親しもうとする心情を育てる。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- 海を身近に感じるとともに、豊かな自然が残されていることに感謝する心や今後も美しい海を守っていかうとする態度を育みたい。
- サーフィン体験を通して、水を怖がらない姿勢やマリンスポーツの楽しさ及び海での安全な過ごし方についての知識・技能を身に付けさせたい。

1-7. 単元の展開（全 7 時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
5	<p>【海辺を歩いて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 石波海岸の様子を観察する。 ○ 石波海岸の砂浜で、グループごとに分かれて砂の造形活動に取り組む。 ※漂着物等もうまく活用する。 ○ 石波海岸の清掃活動を行う。 	<p>評) 各児童が、自分の五感を使って豊かな自然を感じることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どのような感想をもったかを発表させる。 <p>評) グループで協力して発想豊かな砂の造形活動に取り組むことができたか。</p> <p>評) 「来た時よりも美しく」という考えのもとに清掃活動に取り組むことができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 粗大ごみ等については、無理に収集しないように助言する。
2	<p>【海での遊び】（サーフィン教室）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 着替えを済ませてプールに移動し、はじめの式や準備運動を行う。 (学習協力者の紹介および挨拶等) ○ ボードを使ってパドリングやボードに立つ体験をする。 ○ 海で気を付けることについて、講師の方の話を聞く。 ○ おわりの式を行う。 (お礼の言葉や感想等) 	<p>評) 素早く着替えを済ませ、主体的な態度ではじめの式に臨むことができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習協力者の方々への感謝の気持ちをもたせるような助言をする。 <p>【学習協力者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーファーの方 ・保護者 <p>評) サーフィンの基本的な知識・技能を身に付けることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安全面の配慮から、それぞれのボードには学習協力者がついてサポートできるようにする。 <p>評) 海で遊んだりする際に気を付けることを理解することができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 海は楽しいだけでなく離岸流などの危険もあるので、危険予知能力等も身に付けさせる。 ○ 自分なりの感想を表現させるとともに、講師の方や保護者の方への感謝の気持ちをもたせる。

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 7 時間中の 5～6 時間目

2-2. 本時の目標

- サーフィンの基本的な知識及び技能を体験活動を通して学ぶことで、マリンスポーツの楽しさを実感し、海を愛し、積極的に海に関わろうとする態度を育てる。
- 海の危険についても理解することで、海で過ごす際の安全で楽しい過ごし方について正しい知識及び実践力を身に付けさせる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<ul style="list-style-type: none"> ○ 着替えを済ませてプールに移動する。 ○ 「はじめの式」を行う。 (学習協力者の紹介および挨拶等) ○ 準備運動を行う。 ○ サーフィンの基本的な説明を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ボードを使ってパドリングを体験する。 ・ボードに立ってみる。 ○ 海で気を付けることについての話を聞く。 ○ 「おわりの式」を行う。 (お礼の言葉や感想等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 素早く着替えを済ませ、プールに集合させる。 ○ 主体的な態度ではじめの式に臨ませる。 ○ この活動が実施できるのは、学習協力者の方々のおかげであることを理解させ、感謝の気持ちをもたせるような助言をする。 評) 児童が感謝をこめて挨拶できたか。 【学習協力者】・サーファーの方 ・保護者多数 ○ 準備運動をしっかりと行わせる。 ○ サーファーの方のサーフィンに関する基本的な説明を聞き、知識・技能を身に付けさせる。 ○ 初めにパドリング体験を行い、ボードに慣れた段階で実際にボードに立つことに挑戦させる。 評) サーフィンの基本的な知識・技能を身に付けることができたか。(児童の様子) ○ サーファーの方に海で遊んだりする際に気を付けることを具体的に説明していただく。 ○ 海は楽しいだけでなく離岸流などの危険もあるので、危険予知能力等も身に付けさせる。 評) 海の危険について理解することができたか。 ○ 楽しい体験ができたことを代表児童に感想として述べさせる。加えて、感謝の気持ちをこめて全員でお礼を述べさせる。

3. 今回の活動の自己評価

- 準備段階から保護者が積極的に協力してくださったおかげでスムーズに活動が実施できた。特に、サーファーの方との連絡調整や保護者の方への協力依頼及びサーフボード等の手配なども積極的に行っていたので、学校側の負担は少なかった。
当日の活動では、児童だけでなく参加していただいたサーファーの方や保護者の方々も大いに楽しまれており、参加者全員にとって有意義な学習となった。
- サーフボードを使ったパドリング競争等も取り入れたことで、児童が習得した技能を競い合う楽しさも実感することができた。
- サーフィンに関する基本的な知識や技能の習得だけでなく、海で楽しく安全に過ごすために大切なことについても学習することができたのは、今後の活動につなげるうえでも意義があった。
- 安全面や海までの移動手段等を考慮してプールで実施したことで、安全に留意しながら実施できたが、実際の波はなかったもので、物足りなさを感じる参加者もいた。



4. 今後の課題

- 今後も保護者との打ち合わせを入念に行うことで、事前準備等の学校側の負担を軽減する支援体制を構築していきたい。(PTA組織の効果的な活用)
- プールでの実施ということで、プールサイドが非常に高温なるので、履物や飲み物の準備等も含めて熱中症対策を十分に行う必要がある。
- 今回の学習で習得した技能を、実際の海で披露できる機会が設定できると、さらに実践的な能力の育成につながっていくと考えられる。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 本学習は、保護者等の協力のもとにサーフボード等がかなりの数準備することができた。また、協力してくださった保護者のほとんどがサーフィンに精通されているという特別な状況であった。他校で本学習を実施する場合には、学習協力者及びサーフボード等の道具の確保が十分でない期待したような教育効果が得られない可能性がある。